

#ESDfor2030

第1回ESD-Net2030グローバル会合について

- 2020年～2030年における持続可能な開発のための教育(ESD)の国際的な枠組み「持続可能な開発のための教育:SDGs実現に向けて(ESD for 2030)」ロードマップに基づき、**文部科学省とユネスコが共催で開催した第1回目の会合(文部科学省のユネスコ信託基金により開催)**。今後、隔年で開催予定。
- ESD国内実施計画策定済み／策定に関心を示す加盟国及び関係機関等約80カ国から、ESDの取組を実践している教育関係者 200名以上**が一堂に会し、ESDの優良事例の発表やテーマ別討議、ユネスコスクール訪問等を行った。これにより、日本のユネスコスクールを中心としたESDの活動の世界的な周知と、関係者間のネットワーク強化が図られるとともに、各地域での今後2年間のESD推進のための行動が話合われ、ESDの更なる世界的な推進につながった。

【全体概要】

- 日時 2023年12月18日(月)～20日(水)(2.5日間)
- 主催 ユネスコ、文部科学省
- 場所 国連大学(東京都渋谷区)



集合写真

(参考) ESD-Net各地域会合について

- グローバル会合での議論に先立ち、文部科学省のユネスコ信託基金により、2023年中に世界全地域で地域会合が開催された。
- ◆ 5月3日～4日(エチオピア) ◆ 6月12日～14日(インドネシア) ◆ 6月26日～27日(フランス) ◆ 8月29日～31日(アルゼンチン) ◆ 12月4日～5日(レバノン)

会合概要

- 開会式において本田大臣政務官からは、現代の社会のグローバルな課題解決に貢献するESDの重要性を強調するとともに、日本のESDに関する豊かな教育実践を世界に共有でき嬉しく思うこと、そして会合を通じ、世界的なESDの一層の推進につなげていきたいと伝えた。
- ユネスコからはキャッスル・ユネスコ教育局平和・持続可能な開発のための教育部長が、国連大学からは、マルワラ学長が挨拶を行った。



(写真) 本田文部科学大臣政務官(左)、キャッスル・ユネスコ教育局平和・持続可能な開発のための教育部長(中)、マルワラ国連大学長(右)による挨拶

ESD-Net 2030 グローバル会合について

ユネスコ／日本ESD賞 – 2023受賞機関紹介

- 文部科学省の財政支援により、ユネスコに設置されている「ユネスコ／日本ESD賞」の2023年受賞機関の紹介が、国際審査委員を務めた吉田教授(広島大学)からなされ、受賞した3機関の代表より一言ずつ所感が述べられた。
- 受賞機関の一つである金沢大学からはプロジェクト代表のMAMMADOVA准教授が出席し、喜びと今後の展望が語られた。



(写真) 2023年ユネスコ／日本ESD賞受賞者の紹介
(MAMMADOVA氏は左から2番目)

日本のユネスコスクール等における優良事例の発表

- 日本の各学校段階におけるESDの実践例を紹介する特別セッション。
- 「学校全体・地域全体でのアプローチによる学習者主体のESDの実践」というテーマの下、杉村教授(上智大学)をモデレーターとし、宮城教育大学 市瀬教授、気仙沼市立鹿折小学校 小野寺校長、奈良教育大学附属中学校 有馬主幹教諭及び生徒2名、金沢工業大学 平本教授及び島田研究員より、それぞれの地域の特色・背景を活かし、あるいは企業と協働しながら、生徒を主体とした学校全体の取組について、それぞれ発表が行われた。
- その後の質疑応答では、世界からの出席者より多くの質問がなされ、日本の優良事例を世界に周知・発信することができた。



(写真) 日本のユネスコスクールや大学等におけるESDの優良事例の発表

レセプションでは、大妻中野高等学校の生徒による学校紹介、琴の演奏が披露された後、参加者との交流が行われた。



ESD-Net 2030 グローバル会合について

ユネスコスクール等訪問

- 2日目には、首都圏のユネスコスクール等への訪問がグループ別に行われた。
1)東京ゆりかご幼稚園 2)杉並区立西田小学校 3)大田区立大森第六中学校
4)東京都立三田高等学校 5)平塚市大原公民館
- 参加者は各学校におけるESDの取組や授業の様子を見学、教員との意見交換、生徒と一緒に給食を食べることなどを通じ、学校現場における実践の在り方について理解を深めることができた。



(写真) ユネスコスクール小学校訪問時における様子

「ESD for 2030」テーマ別分科会等

- 「ESD for 2030」に示された5つの優先行動分野ごとのテーマ別分科会が行われ、日本からも、広島大学の吉田教授、国連大学サステナビリティ高等研究所の山口所長、岡山大学の藤井教授らがパネリストとして発表を行った。
- 「ESDの実践」に係る別のテーマ別分科会においては、奈良教育大学の及川准教授がパネリストとして発表を行った。



(写真) 日本人パネリストによる発表の様子

地域別セッション

- 地域別に、国内実施計画のレビュー、SDG4における地域別優先順位、次の2年に向けた行動計画について議論が行われた。
- 最終日には、テーマ別及び地域別の議論を総括し、ESD for 2030を前進させるための各地域戦略が共有された。



(写真) 最終日の発表（日本の次世代ユネスコ国内委員の小林氏も発表）の様子

閉会挨拶

- 閉会式では、ジャンニーニ・ユネスコ教育担当事務局長補と渡辺国際統括官から挨拶が行われた。
- 2日半にわたる会合を通じ、関係者間のネットワーク強化が図られるとともに、ESDの更なる世界的な推進につながった。



(写真) ジャンニーニ事務局長補と渡辺統括官による挨拶